



日本書紀 (重要文化財)

30 卷 (存 28 卷 28 冊)

天文 8・9 年写

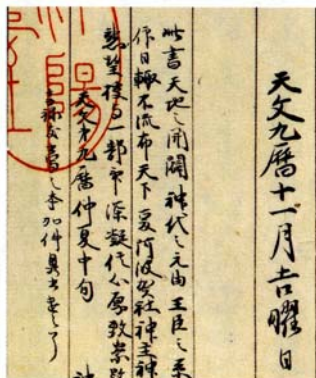
縦 30 cm 横 24 cm

『日本書紀』（全三十巻）は、平城遷都の十年後、すなわち養老四（七二〇）年、舎人親王等が編纂した編年体の歴史書であり、わが国の起源を綴った神代から第四十一代持統天皇までの事績を記している。本書に先立つこと八年、和銅五（七一二）年に完成し、同じくわが国の起源を記した『古事記』が万葉仮名で記されているのに対して、本書は漢文で記されており、本書の成立は、対外的な正史編纂事業の嚆矢でもあった。これ以降、平安時代には、『続日本紀』から『日本三大実録』まで「六国史」と呼ばれる正史の編纂

がなされたのである。

しかし、本書はわが国の正史の第一書でありながら、まとまった古写本が多くはない。全三十巻揃いの写本は、慶長（二五九六年から一六一五年）の頃のもの最古である。掲出本は、それよりも古く天文八、九（一五三九、四〇）年に書写されたものであり、神代巻二巻を欠くものの、まとまった写本としては現存最古の一つと言える。吉田神道の創始である吉田家伝来のもので、書写者は、卜部（吉田）兼右。一時衰退しかけた家学（吉田神道）の再興をはかって、吉田家諸本の秘説を集成し、

天文九曆十一月吉曜日



書写した。

ところで、本館には掲出本以外にも多くの吉田家旧蔵書が納められている。そのうちの一つに、掲出本に欠けている神代巻二巻の古写本がある。こちらは、乾元二（一二三〇）年卜部（吉田）兼夏が書写したもので、現在は国宝に指定されている。

（天理図書館 三濱靖和）

天理図書館のお知らせ Tel:0743-63-9200 <http://www.tcl.gr.jp/>  
 平日（午前9時～午後5時半） 土・日・祝（午前9時～午後4時半）  
 ただし1月1日～6日、26日、30日は休み  
 （本欄にて紹介した名品の閲覧については係へお尋ねください）